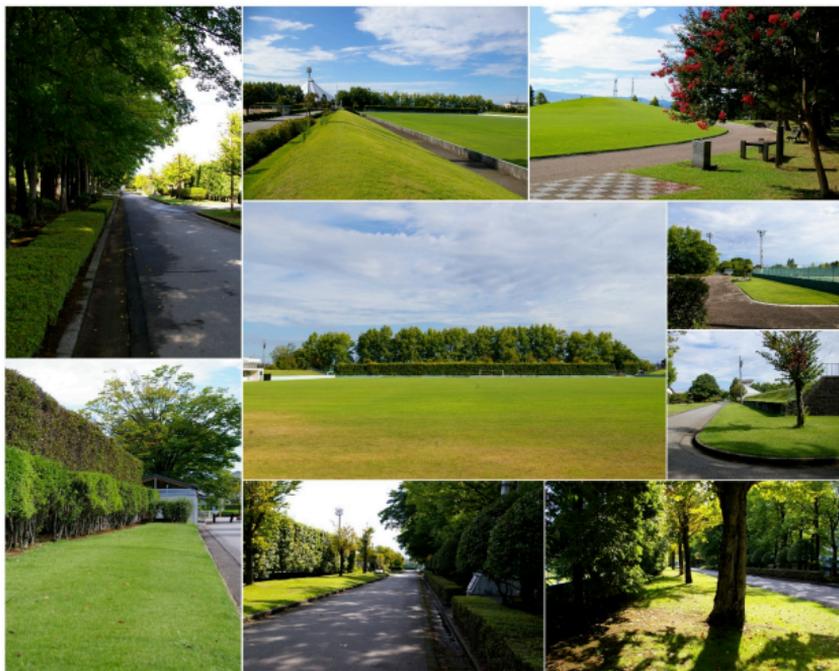


岩瀬スポーツ公園トイレ | 小さな 小さな、愛すべき そんざい 施設として





建替え前のトイレ







木製(柵)ガラリから溢れる暖色が異質を閉らす



樹木がガラスに映り込み、内部ではガラスを通して樹木が室内に入り込む



小さなhouse 公園のトイレ



アプローチ：  
風産杉材でつくる 大屋根の架構



「産け」のあるアプローチ：  
切り取られた公園の風景に佇むひととき



木影ガラリがつくる丁度良い明るさと守られ感



木製ガラリ詳細 - 人がぶつかっても壊れない強度



幼児用便器と三角形の耐力壁面 (ここで屋根構造を戻めている)



妻面のはめ殺しガラスを通して整形が室内に入り込む



女子トイレから男子トイレまで伸びる大屋根の架構



人感センサーにて照明を  
コントロール



妻にも透気ルーバー



小さなoasa 公園のトイレ



多目的トイレ入口



多目的トイレ内部：通風ルーバーにより通風が十分に行き渡り臭いがこもらない



コンクリート打ち出し壁も角は丸み加工で安全



汚くないトイレ  
ちっとも臭くないトイレ  
防犯性が高く安心感のあるトイレ  
プライバシー度も高く落ち着いたトイレ  
夜になると光が漏れて周囲を穏やかな光で照らすトイレ

⋮

そして、行くことが好きになるトイレ

⋮

緑豊かな環境を室内に取り込み、  
公園の中の休憩所のような空間として存在するトイレ



岩瀬スポーツ公園は年間を通じてさまざまなスポーツイベントや市民スポーツ競技が開催されている。しかしスポーツ愛好者に限らず、この緑豊かな緑化空間を愛する人も多く、朝夕に散歩をする人、ウォーキングをする人などでいつも人通りが絶えない。市民の憩いの場、くつろぎの場として近隣の人にとっては無くてはならない環境となっている岩瀬スポーツ公園。そんな環境に設置される公衆トイレとして今回目指したのはトイレ機能に止まらず、緑地空間という環境と一体化した「行くことが好きになるトイレ」トイレ休憩のときに感じる心地よさの追求が今回の設計上のテーマとなった建物です。



## 立地環境と建物の形と配置

今回計画した公衆トイレは公園内駐車場とサッカー場まわりの農田道路との接点に位置しています。前道路路は緊急自動車の連絡となっており、そのため建設可能な位置関係は限られることになります。

## プランの合理性

上記より土地制約が示された中で、次に本計画に付与したことは男子トイレ、女子トイレ、多機能トイレのそれぞれの入口が混み合う気になるところが分離できる形での計画でした。さらに、その間に開放感があればより良いとも考えました。今回の計画では入口の反対側に「抜け」をつくことで入口ホールの開放性と分離性が形としてまとまり、使い勝手の良いゾーニングではないかと考えています。

## 臭わない！トイレにしたい

今回の計画に当たって市内の公園につくられた比較的新しい公衆トイレ10数カ所を視察してきました。これまで公衆トイレの印象として語られる「汚い」「臭い」「暑い」というイメージ、経験した人ほとんどがその課題にチャレンジして、様々な好意ではありました。しかし、決して「臭い」はなかなか解決していませんでした。ただ、唯一外扉扉すべてに通気スリットを設けている公衆トイレは臭いに臭いがこもらずここは快適でした。

今回のトイレは臭わないトイレを目指しました。

- そのため、
- 外扉扉すべてに通気スリット(横格子付)を配する
  - トイレの壁はH=1900の開口切りとし、上部をオープンにする。
  - トイレ全体を大屋根で覆う構造とする

## 明るくだけでなく、緑豊かな景観を室内に取り込む

室内が明るく見通しがきくことは気分がいい。この緑豊かな環境を室内に取り込むことができれば、さらに良い。但し、トイレ空間はプライバシーの確保は何となく重要。この明るく見通しが良く、かつプライバシーが守られているということは二律背反といえ、クリアしたい課題です。

- そのため、
- 屋根の裏側にガラスを入れ、室内の採光を取る
  - トイレの手洗いコーナー側に木製ガラリを付け
  - ガラスをはめ込む
  - これ以外部からは中の様子は見えないが内側からは外の様子を見ることが出来る。彼は木製ガラリから照明の光が漏れ景観照明の役割を果たします。

## セキュリティ配慮の設計

長く見通しの悪い窓際された空間はセキュリティ確保が難しい。公園内の人通りが途絶えた時の公衆トイレのセキュリティ確保は大きなテーマです。

- そのため、
- トイレ内の開口切りをH=1900の高さとして上部をオープンにする。トイレ全体を大屋根で覆う構造として室内空間をオープンな環境とした。
  - トイレ正面入口に「抜け」をつきおとにオープン度を増す。この「抜け」により男女の共通の入口ホールはより分離度が高まり、心理的な快適度が増すという考えです。
  - もちろん、手洗いコーナーの木製ガラリ付ガラスによってもオープン度は増します。また、夜間のセキュリティの面でも効果があります。

## 誰もが使いやすい、機能的なトイレ

男女、高齢者と成人と子供、ハンディキャップのある人、車いす利用の人など、どんな人にとっても使いやすい公衆トイレであること。車いす利用者や一人でも登ることのできる緩やかなスロープや手洗器具のバリアフリー化、誘導サインや各部の滑りに配慮したユニバーサルデザインを採用するなど、設計上での配慮が重要と認識して設計を検討した。

## 管理しやすいトイレ空間

輝度の高い素材や形状、汚れにくい素材などの採用はトイレを清潔にキレイに保つためにはとても重要です。また、小規模な手洗い器具を壁掛け式にした手洗い器をカウンター一体型にするなど、掃除のしやすい器具の選定も併せて重要です。メンテナンスのしやすい新素材の採用も適宜活用するようにしています。センサー付きの照明利用による効率の良い管理と管理体制の効率と品質を上げることが出来るのかを考慮検討を行いました。

## 維持管理費の負担低減に配慮

公衆トイレの維持管理費はトイレ機能としての電気代、水道代などのライフラインの費用の他に建物そのもののメンテナンスに対する費用の低減の2通りがあります。ライフラインの費用の低減には照明の太陽光利用やLED化、センサー利用、トイレ器具では節水型や洗浄水の雨水利用など最新技術の取り入れを検討しました。建物そのものについては建物を含む外装(屋根、壁)の耐用年数を高くし、設備電気部品の耐久性を高くすることが重要です。コストの検討も必要になりますが、屋根は汚劣劣化部品のガルバリウム鋼板置き、外装はフック樹脂建築コンクリート打放し面とアルミサッシ面、そしてそれらの部位の耐久信頼性の高いシンプルな納まりとして構成したいと思えます。

## 都市公園の中の公衆トイレと景観

今回の公衆トイレは緑豊かな運動公園に立地します。できうるなら必要にして十分なトイレ機能にプラスしてその場にふさわしい、自然と馴染む良い印象が浮かぶような空間にしたい、と思います。いわば「緑の空間」でも良いようなような。そのためには緑豊かな公園の自然環境を室内に取り込み、まわりの環境と一体化した空間演出が欠かせません。今回の提案は建築物にガラスを積極利用して「抜け」をつくり、周辺の緑環境と一体感を高めるよう工夫しました。



アプローチ「抜け」

通気スリットと木製ガラリ

屋根裏側にガラスを設ける

手洗いコーナーの木製ガラリ

手洗い器具の壁掛け式

センサー付き照明

耐久性の高い素材

自然環境との一体化

緑豊かな公園の中

開放感とプライバシーの確保

自然環境との一体化





小さな家の公園のトイレ



小さな家の公園のトイレ